

要旨

研究テーマ：組織の垣根を壊す

1. 背景

現状の IT 領域の会社では、企画・開発・保守・運用という役割毎に組織を分割し、共同して仕事を進めるのが一般的である。組織レベルで役割を明確にすることで、担当が分かりやすくなることや、専門的な人材の育成・配置ができるなどメリットがある。

その一方で、担当外の工程に対する意識が薄くなることや、組織毎に仕事に対する考えや態度が異なり、対立が生じるなど、無視できないデメリットが存在する。

2. 現状業務の問題から考えた研究テーマの課題

研究グループメンバーからは、次の 3 点が現状業務の問題として挙げられた。

(1) 関係部門と考え方が異なり、会話が成立しない。

(例：営業部門に軽んじられていて打合せがセッティングできない、共同で使用している開発環境を勝手に更新される 等)

(2) 部門間で情報共有がうまくいかない。

(3) 責任の所在が曖昧である

上記 3 点の問題から、「部門間の垣根があること」が原因であると考え、それを壊すことを考えた。部門間の垣根を壊すための課題として、次の 2 点を挙げる。

(1) 各組織の構成員が、より上位の組織の目的・目標及び他組織の目標を把握せずに仕事をしているため、考え方や取り組み方が組織間で対立してしまう。

(2) 他組織との信頼関係の構築が不十分で、組織間で折り合いをつける議論ができない。

要旨

3. 解決策の提示

2. で挙げた課題の解決策として次の 2 点を挙げる。

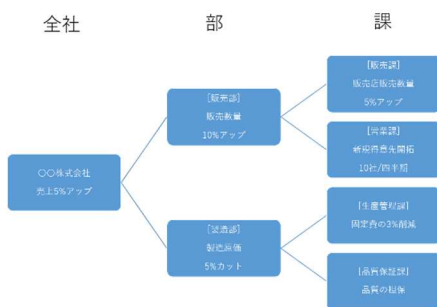
- (1) 組織間の目標の繋がりを可視化した「目的・目標ツリー(図 1, 2)」を作成する
 目的・目標ツリーは、部・課・個人それぞれの横の繋がりに重点を置いて作成する。これを用いて、設定した目標を全社に公開することで、他組織と目標を共有し、相手がどのような考えで仕事をしているのかを把握することで、組織の垣根を解消する。
- (2) 約束を守れる人材となる
 各組織の構成員が日頃から約束を守り続けることで、組織間の信頼を築くことができるようになる。
 本発表では、約束を守るためにはどのような行動や心構えが必要かを、研究グループメンバー内で議論した結果を紹介する。

4. 今後の課題

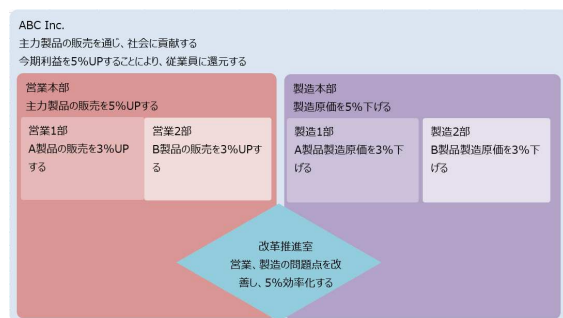
本研究期間では、解決策の検証までは至らなかった。
 解決策の検証に関しては次の 2 点を方針として挙げ、今後の課題とする。

- (1) 各種解決策の実証実験
 実際に自社業務にあてはめてツリーを作成し、効果を実感する。
- (2) 運用方法の確立
 システム化を行い、メンテナンス性や閲覧性を向上させていく。

(図 1) 目的・目標ツリー(全社ビュー)



(図 2) 目的・目標ツリー(部・課ビュー)



※文章内の記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または各社に帰属する標章もしくは商号です。